

2022年12月8日

原子力規制委員会 委員長 山中伸介様

反原発自治体議員・市民連盟 武笠紀子

岸田首相は原子力推進政策へ方針転換しましたが、どんな些細なことでも、疑問が残る限り、再稼働の認可を出さないでください。

東京電力福島第一原発過酷事故から12年経ちました。福島の放射能被害を受けた自治体住民の暮らしの状況は年々悪くなっています。国も東電も認めませんが、子どもたちの甲状腺ガンだけでなく、住民の健康被害も広がっています。原発推進政策への転換で得をする人はいるでしょうが、被害を受ける人が出ることを忘れてはならないのです。

私が共同代表をしている『反原発自治体議員・市民連盟』では、2013年より、福島の自治体議員の皆さまと連携して『福島を忘れない！全国シンポジウム』と現地見学会を続けられました。2020年よりコロナ禍で休止していますが、7回を重ねています。原発事故により、突然に、家族や友人、コミュニティーと故郷を失い、事故前の穏やかな暮らしを失い、二度と元の故郷には戻れないみなさんの話を聞くと、もう日本のどこの自治体でも、同じことが起きないように祈るばかりです。原発は止まっていますが、大地震や大津波等で放射能汚染事故が起きるのですが、稼働しているよりは少しは安全です。

原発過酷事故で放射能汚染が起きれば、二度と元へは戻れない、お金ではけっして解決できないのです。原子力規制委員会が再稼働の認可を出すことで、原発事故の確率が高まっていきます。認可を出す責任の重さを噛み締めて、少しでも安全性に疑いがある限り、決して再稼働の認可を行わないよう、よろしく願いいたします。

以上